



介護ロボットを導入しようとする

介護施設の皆さま



専門家の先生が個別に助言等の伴走支援を行います！

介護ロボットを導入しようとする介護施設に対し、パッケージモデル等を踏まえ、個別に助言等の導入支援(伴走支援)を行います。

支援内容としては、課題の見える化に関する支援、課題を踏まえた適切な介護ロボット選定に関する助言、介護ロボットの導入に当たっての施設内のオペレーション変更に関する助言、職員に対する研修等の実施に関する助言、介護ロボット導入による効果の把握、取組の見直しに関する助言等が考えられます。 ※ 原則3施設を対象とし選定し、1施設あたり原則3回訪問し、実地指導を行います。

■ 伴走支援のイメージ

訪問後に適宜フォローアップ

訪問後は、電話等で状況確認。必要に応じて専門家(アドバイザー)がサポート実施

訪問①

- ・介護現場の課題抽出
- ・介護ロボットの選定

手順1

手順2

改善活動の準備をしよう

現場の課題を
見える化しよう

訪問②

- ・導入計画書の作成
- ・介護ロボットの試行的運用

手順3

手順4

実行計画を立てよう

改善活動に取り組もう

訪問③

- ・試行錯誤を繰り返し、
介護ロボットの本格導入を目指す

手順5

手順6

改善活動を振り返ろう

実行計画を
練り直そう

支援ご希望の事業所さまは、以下↓までご連絡ください。

公益財団法人 介護労働安定センター 鳥取支部

TEL:0857-21-6571 FAX:0857-21-6572



令和5年度「介護現場の生産性向上に向けた介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」事業報告書が厚労省HPへ公開されました。

■令和5年度「介護現場の生産性向上に向けた介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」事業報告書
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001091143.pdf>

■介護分野における生産性向上の取組の支援・普及に向けた推進体制について（改訂版）
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001252963.pdf>

参考 令和5年度の伴走支援事例（伴走支援事業所：特別養護老人ホーム）

	取組	工夫した点
【手順1】 改善活動の準備をしよう	既存の委員会に施設長や看護課長、多職種（事務、調理課等）も含めた新規プロジェクトチームを発足。施設長のスタート宣言も実施。	施設全体で取組めるよう、既存の委員会に多職種を加えたチーム作りからスタートした。なお、導入の取組に対する施設長の理解があり、推進リーダーのフォローアップ（権限委譲等）も模範的であった。
【手順2】 現場の課題を見える化しよう	3M（ムリ・ムダ・ムラ）についての職員アンケートを実施。リーダー職員がファシリテーションするワークショップにて、アンケート結果の項目分類、重要度分類を実施。今年度の改善に取り組む課題として夜勤帯の負荷軽減、ケアワーカーへ業務集中の改善、コミュニケーションと連携の改善が挙げられた。	新型コロナウイルスの影響が非常に大きく、計画から大きく進捗が遅れたが、キーマンのリーダーシップと、業務アドバイザーの定期的なフォローによりポイントを押さえ、課題の見える化が何とか期限内にて達成できた。
【手順3】 実行計画を立てよう	① 導入機器の選定 ・見守りセンサーは「夜勤帯の負荷軽減」と「看取りケア」を重視し、数社を試用した。 ・職員間のコミュニケーション、情報連携の向上のためインカムを導入。 ② 設定したKPI ・巡回回数（距離）、インシデント件数、睡眠データ比較や職員アンケートを実施	試用貸出の取組を活用して、事業所の課題に則した介護ロボットの選定を促した。また、試用貸出業者とも連携し、施設訪問前に施設ニーズ、課題等を共有することで試用が円滑に進むよう配慮した。
【手順4】 改善活動に取り組もう	① 機器の導入 ・見守りセンサー：12月26日導入、試験運用開始→1月15日本格運用開始 ・インカム：11月末に導入、運用開始 ② 機器の導入と同時に行ったその他の改善活動 ・スタンディングリフト（スマイル）導入 ・ケア方法の見える化の実施 ・朝礼等、情報共有方法の見直し ・消耗品管理の見直し ・ケアワーカーの業務見直し ※合計33項目を優先順位、重要度の観点から期間を設定し、随時取り組みを進めている。	導入機器業者と業務アドバイザーが連携し、マニュアルの作成や教育体制の構築を支援した。
【手順5】 改善活動を振り返ろう	見守りセンサー、インカム、その他改善活動による評価を実施 ・客観データ：巡回回数（移動距離 or 歩数）、インシデント件数、睡眠データ、休憩時間の確保、コミュニケーション時間等で評価 ・その他：ワークエンゲージメント調査、職場満足度 ※今後、実行計画見直し予定	・アンケート、評価項目を業務アドバイザーと事業所が一緒に協議した。改善目標を明確化することで、改善活動の方向性が意識でき、活動にぶれがなかった。また、職員研修にて業務アドバイザーが導入目的を改めて説明することで職員の巻き込みを強化した。 ・ミドルリーダー、職員の主体性が高いと感じたため、導入ポイントを事前にお知らせする等、現場主導の改善活動になるように仕向けた。
【手順6】 実行計画を練り直そう		